



## 展覧会概要

尾張徳川家で大切に守られてきた多種多様な雛飾りをご紹介する本展は、今年で36回を数えます。本年も、江戸時代に尾張徳川家の姫君のためにあつらえられた雛人形や、婚礼調度のミニチュアである雛道具、明治時代から昭和時代にいたる尾張徳川家三世代の夫人たちの豪華な雛段飾りなど、春を迎える喜びと華やぎに満ちた品々を展示します。

## 展覧会基本情報

- ◆展覧会名 特別展 尾張徳川家の雛まつり
- ◆会場 徳川美術館 本館（第7・9）展示室
- ◆会期 2023年2月4日（土）～4月2日（日）
- ◆開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- ◆休館日 月曜日
- ◆観覧料 一般1,400円 高・大生700円 小・中生500円  
※20名様以上の団体は一般1,200円 高大生600円 小中生400円 ※毎週土曜日は高校生以下入館無料  
※同時期の企画展「読み解き 近世の書状」の観覧料も含む
- ◆主催 徳川美術館 名古屋市蓬左文庫 中日新聞社
- ◆協力 名古屋市交通局

## 取材について

**2023年2月3日（金） 午後1時30分～**

会場：徳川美術館 講堂

内容：担当学芸員による展示説明会の後、自由取材

展覧会取材の他、特定の出展作品の取材も可能です。  
動画撮影につきましては開館時間外も対応いたしますので、ぜひお気軽にご相談ください。

お問い合わせ 取材は随時お受けいたします

〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017

TEL：052-935-6262（10時～17時受付）

052-935-8222（営業時間外受付）

FAX：052-935-6261

[報道関係対応窓口] 徳川美術館 管理部

吉川 由紀 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 大知 d.takeuchi@tokugawa.or.jp

## かねひめ ゆうそくびな 矩君の有職雛

矩姫（貞徳院・一八三二〜一九〇二）福島・二本松丹羽家十代長富の二女として生まれ、嘉永二年（一八四九）に慶恕（後の尾張徳川家十四代慶勝）に嫁ぎました。

矩姫の雛人形は、高さおよそ三〇センチの有職雛で、束帯姿三対・直衣姿一対・狩衣姿一対があります。有職雛とは公家の装束を正しく考証して作られた雛人形のこと、身分・年齢・季節によって異なる装束を、人形の背丈に見合うよう文様を縮小して織らせた裂で再現しています。矩姫の人形は当時制作された大名家のお雛様のなかでも、ひときわ格調高い作品です。

また矩姫は、高さおよそ一〇センチの小ぶりの雛人形も所持していました。江戸時代末の將軍家や御三家では、雛飾りが大奥の二〜三箇所にしつらえられたと言われています。この小ぶりの雛人形の箱には「御内証」の貼札があり、プライベートな場で飾られたと考えられます。



有職雛（狩衣姿）  
貞徳院矩姫（尾張家14代慶勝正室）所用  
公家男子のカジュアルな日常着である狩衣姿の男雛に合わせ、女雛も袷と呼ばれる日常着を着用している。

## 尾張徳川家伝来の雛道具

### さちきみ きくおりえだまきえ 福君の菊折枝蒔絵雛道具

福君の雛道具の一つで、梨子地に菊の折枝を配し、所々に近衛家の家紋である抱牡丹紋と徳川家の葵紋を散りばめたデザインを施し、金具にはすべて銀が用いられています。福君の婚礼調度として伝来する、等身大の菊折枝蒔絵調度の諸道具と遜色のない精巧な出来映えを示しています。

### だきぼたんもんちらしまきえ 福君の抱牡丹紋散蒔絵雛道具

「菊折枝蒔絵雛道具」とともに、福君が所持した雛道具です。梨子地に金具と蒔絵によって、近衛家の家紋である抱牡丹紋を配し、金銅製の金具を打つています。豪華さと格調の高さに独特の趣きがあります。

### しやうちくばいまきえ 矩姫の松竹梅蒔絵雛道具

矩姫の雛道具です。梨子地に松竹梅の折枝と唐草文様を配し、銀の金具を打った豪華な仕様です。その数は八十点余りに及び、当時の婚礼調度のありさまをよく伝えていきます。

### たてわく まるもん 立涌に松竹梅丸文蒔絵雛道具

所有者は明らかではありませんが、紫壇地に金蒔絵と色漆で松竹梅の丸文と立涌文をあらわした、重量感のある雛道具です。

### ぼたんもんからくさまきえ 牡丹唐草蒔絵雛道具

もとは十一代將軍徳川家斉が愛玩した雛道具とされ、のちに故あって矩姫の所持するところになったと伝えられています。





## 尾張徳川家の 三世代にわたる雛段飾り

徳川美術館の創始者である、尾張家十九代義親の夫人米子（一八九二〜一九八〇）、二十代義知の夫人正子（一九二一〜一九八八）、そして二十一代義宣の夫人三千子（一九三六〜）の三世代にわたる尾張徳川家の雛段飾りです。数組の内裏雛を上段にすえ、三人官女・五人囃子や多種多様な雛道具が並べられます。節供の祝儀としてさまざまな方々から贈られた御所人形・毛づくり人形などの愛らしい人形も一緒に飾られており、江戸時代以降の大名家の雛段飾りのあり方がよく示されています。



### 上 / 三世代の配置

各夫人の雛人形は、おおまかではあるが上段のぼんぼりを境に、左から明治の米子、大正の正子、昭和の三千子、と並ぶ。各時代の技術や流行の変遷も興味深い。

### 左 / 毛づくり人形

絹糸でできた毛を揃えて貼り込み、動物をかたどった可愛らしい人形。明治初期には海外にも輸出され、もてはやされた。大河ドラマで取り上げられている徳川家康が兎柄の羽織を着ていたことにちなみ、今年には兎の人形を公開する。

## \*\*\*\*\* 2023年の見どころ \*\*\*\*\*



有職雛 中村家寄贈

### 名古屋の旧家・中村家（佐野屋）に伝えられた 五撰家筆頭、近衛家ゆかりの内裏雛飾り

\*\*\*\*\*

この内裏雛飾りには御所の紫宸殿になぞらえた御殿が詠えられており、現存する最大規模、かつ他に類例のない貴重な作例となります（御殿は非公開）。そのため人形は御殿の規模に見合う大きさで作られており、顔の表情も個性豊かで品格があり古風です。装束は人形の身丈に合わせて織られた裂のほか、人が着用する実際の装束の裂地が用いられており、仕立ても有職ならつた本格的な作りとなっています。

五撰家筆頭の名家、近衛家から嫁ぎ、11代斉温の継室となった福君の内裏雛飾りとして尾張徳川家に伝わったと考えられていますが、明治時代になって尾張徳川家から名古屋の旧家・中村家に譲与されて同家に大切に伝えられ、近年同家より当館へご寄贈いただきました。中村家は、佐野屋與右衛門を初代として元禄3年（1690）に創業した味噌溜を商う名古屋城下有数の商家でした。

## 視聴者・読者プレゼント提供

特別展「尾張徳川家の雛まつり」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会の御招待チケット（非売品）を、1媒体5組10名様にご提供いたします。（同時期開催の企画展「読み解き 近世の書状」と共通）



特別展 尾張徳川家の雛まつり

広報画像申請書 使用期間：～2023年4月2日



No.1  
有職雛（狩衣姿）  
貞徳院矩姫（尾張家 14 代慶勝正室）所用  
江戸時代 19 世紀  
徳川美術館蔵

No.2  
菊折枝蒔絵雛道具 貝桶・合貝  
俊恭院福君（尾張家 11 代齊温継室）所用  
徳川美術館蔵



No. 3 尾張徳川家三世代の雛段飾り  
明治～昭和時代  
個人蔵



No.4  
毛づくり人形  
明治時代 19～20 世紀  
個人蔵

使用媒体 \_\_\_\_\_

放送日・発売日 \_\_\_\_\_

プレゼント提供 希望する ・ 希望しない \_\_\_\_\_

貴社名 \_\_\_\_\_

ご担当者様 \_\_\_\_\_

データ送付先アドレス \_\_\_\_\_

ご連絡先電話番号 \_\_\_\_\_

[ ご利用にあたっての注意事項 ]

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1017

TEL : 052-935-6262 (10時～17時受付)

052-935-8222 (営業時間外受付)

FAX : 052-935-6261

担当: 吉川 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp